

連雀学園



令和元年度 連雀学園の評価・検証 結果報告

検証項目	1 コミュニティ・スクールの運営	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの運営に係る内容 ・地域との効果的な連携に係る内容（関係機関との連携、教育ボランティア等） 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいメンバーを迎え、まずは円滑に運営できるようにする。学園管理職会、CS役員会等で内容を整理・統合し、話し合いの時間を確保する。 ・各小学校の支援組織の成果を中学校で活かす。 ・CS委員会が主催する地域の資源や人材等を活用した様々な取組を通して、学園として新しい交流の在り方を考え、実践する。 ・「推進委員会」「学園研究」「100人の会」「スポーツ交流」など教職員同士やCS委員との交流や親睦を重視する。 ・[連雀学園NEWS]の内容の充実を図る。 ・ホームページの更新回数100回をめざし、内容の充実を図る。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・CS委員9名の交替があったが、学園管理職会、CS役員会等で内容を整理統合したことでCS委員会の円滑な運営につながることができた。 フリートークは5回のうち3回実施した。また1月にはCS熟議も行うことができ意見交換の機会も増えたことがCS委員会の運営の満足度につながった。 ・各小学校の支援組織のメンバーが今年度CS委員に入ったことで日常の学習支援だけでなくCS主催の行事等で連携を深めることができた。3学期に小学校3校で漢字検定を実施できたことも成果である。 ・各校の学習支援の充実により今年度、みたか地域未来塾を4校で立ち上げることができた。 ・「連雀学園NEWS」の発行に加え、今年度「連雀学園コミュニティ・スクールガイド」を作り替えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援の活性化に向けてはボランティア側にフィードバックをする等改善・工夫をしていく。 ・地域未来塾をさらに起動に乗せていくためにHPに掲載したり、教育委員会、CS委員、地域、に呼びかけ支援員の人員を増やしていく。 ・CS委員会の活動をより充実していくためにも協議時間をとる努力をし、委員同士の意見交換をしていく。 ・CS委員会の周知を行き届かせるためにも広報誌の充実やHP更新を着実にやっていく。 ・来年度から配置される推進委員の効果的な活用とスクール・コミュニティ創造に向けての活動が新たな目標となる。
検証項目	2 小・中一貫教育校としての教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラムの実施・検証に係る内容（学園研究等） ・小学校間での授業交流 ・乗り入れ授業 ・児童・生徒の交流活動 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・30年度の実績を踏まえ、児童・生徒が企画からかわられる活動を設定し、中学生のリーダーシップ、自己有用感を育成すると同時に、小学生のフォロワーシップや中学生へのあこがれの気持ちを育てる。 ・交流学习、中学校体験などのねらいや活動の見直しを継続的に行い、外部人材なども活用しながら推進する。 ・年間計画への位置づけ、特別活動のカリキュラムの改善など、児童会・生徒会の企画が生きるような環境設定をしていく。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・連雀縦割り活動、あいさつ運動、児童会生徒会活動は、低学年の児童に配慮した内容を企画し、小学生が楽しめる内容となり一中学生の満足度も高かった。 ・「子ども熟議」で出された意見からの企画で「連雀集会」実施に向けてさらに充実した熟議を行うことができた。 ・乗り入れ授業は計画的に行われており教員も有効性を認めている。 ・選択交流学习（4・5年）中学校体験（6年）連雀音楽会（5年・中3）の活動の充実により中学校へのあこがれや連雀の児童・生徒の満足感への高まりにつながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連雀学園あいさつ運動は毎回各校工夫をしながら活性化を目指しているが、より自主的に日常につながる取組への工夫が必要となる。 ・乗り入れ授業や交流活動の意義を機会をとらえて共有することと、乗り入れの際には教員がより具体的に関わられる手立てを考えていきたい。

検証項目	3 (知) 確かな学力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市小・中一貫カリキュラム、三鷹「学び」のスタンダードの活用による授業力向上 ・授業のユニバーサルデザイン化による分かる授業の推進 ・ICT活用 ・主体的・対話的で深い学びの推進 ・みたか地域未来塾をはじめとした補充学習等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・知的コミュニケーションを活かした学びを手だてとし、児童・生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成を重視する。 ・「連雀学園『まなび』のスタンダード」を改訂し、基本的な生活習慣、人とのかかわり、家庭学習の習慣、体力向上など意識した生活が送れるようにする。 ・連雀学園版小・中一貫カリキュラムを作成する。 ・ICTを活用した学習活動に取り組む。 ・相互乗り入れ授業を有効に活用する。 ・「東京方式 ガイドライン」に則った習熟度別指導の推進を図る。 ・主体的・対話的で深い学びの趣旨を踏まえた学習指導＝知的コミュニケーションを活かした学びを重視する。 ・みたか地域未来塾を設置し、補充学習に取り組む。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果は学園全体が高い水準を維持している。 ・「連雀学園「まなび」のスタンダード」を改訂し学校から発信したことにより子ども、保護者ともに家庭での学習、生活を見直すきっかけとなった。また、子ども、保護者、学校との連携ができ課題が共有されたことも成果である。 ・「連雀学園版小・中一貫カリキュラム」が学園の教職員により完成した。 ・主体的・対話的で深い学び＝知的コミュニケーションの推進を学園研究を中心にすすめた。小学校3校が同じ教科で、さらに中学校を含む4校で自尊感情の向上という視点を明確とした研究となり教員の意識の高まりが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の分析を各校で行い、地域未来塾等を生かした学習支援が必要な教科の補習学習を充実させる。 ・「連雀学園「まなび」のスタンダード」のCS委員会としての関わりを今後どう考えていくか。さらに、最終的には家庭で主体的に取り組ませるための保護者の意識を向上させる働きかけが今後の課題となる。 ・「連雀学園版小・中一貫カリキュラム」を今後活用し授業改善や相互乗り入れ授業に生かしていくことが必要となる。

検証項目	4 (徳) 豊かな人間性	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考え議論する道徳 ・情報モラル教育 ・いじめの早期発見・早期解決 ・生活指導等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にしたあいさつ運動の実践、家庭への協力を呼び掛けるなど、年3回のあいさつ運動の取組に工夫・改善を加えながら実践する。 ・中学校進学を控えた3月と中学進学後の6月に引き継ぎの会や教育支援コーディネーター会を開催し、引き継ぐべき内容を整理して情報交換を密に行い、個々への指導方針を明確にする。 ・道徳や特別活動の時間等を活用し、教員と子ども、子ども同士の人間関係を構築する。 ・「いじめ防止対策推進法」の趣旨を踏まえ、学園としての取組を明確にし、人権に配慮した教育活動を継続する。 ・研究に位置付け、自尊感情アンケートを実施し、実態を明らかにし、児童・生徒の自己肯定感・自己有用感を高める活動、指導を行う。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園のあいさつ運動への取り組みの成果には職員は満足している。取組みへの工夫も学校ごとに意欲的であった。 ・中学校との引継ぎ会は2回実施できた。教育支援コーディネーター会の実施も個々への支援の継続に役立った。 ・学園の健全育成について生活指導主任が中心になって、「わが家の『まなび』のスタンダード」の働きかけができたことは大きな成果となった。 ・自尊感情アンケートを各校実施し肯定的な回答が増えていることは学園の取組みの成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CS委員の評価は、きちんとした挨拶が出来る児童が増えたという好評価がある反面、日常的な挨拶にはつながっていない、保護者の関心も薄いと感じている割合が多い。家庭・地域ぐるみで日常的にあいさつできるよう啓発していく。 ・中学校での通教指導教室への引継ぎにむけても個別指導計画の活用を促していく。 ・「いじめ」はあっても仕方がないことと考える児童をなくす指導を徹底していく。

検証項目	5 (体) 健康・体力	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・体力向上、健康にかかわる内容（食育）等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究に健康教育を位置付け、児童・生徒が自分の体力を知り、関心を高める授業を実施する。 ・体育の授業改善とともに、体力の向上を目指し、運動の日常化をねらった取組を行う。 ・オリンピック・パラリンピック教育のねらいに合った教育活動を積極的に展開する。 <p>【例】「連雀クラス対抗長なわオリンピック（仮称）」各校の取組(持久走、短なわとび、体幹トレーニング等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、安全点検などを実施し、防災意識を高め、防災計画の改善を行う。学園で共通した取組や地域・保護者と連携した継続的な取組を行う。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学園研究に健康教育を位置付けたことにより体力の向上や健康に向けて教職員の意識が高まった。 ・小学校は体育科の授業改善、運動の日常化に向けた取組みにより体力・運動能力調査の結果は着実に伸びている。 ・オリンピック・パラリンピック教育に向けての教育活動は各校ともに充実した学習が実施できた。 ・小学校3校で体幹を鍛えることを目指して、「楽体リング」を使用し毎朝取組めたことは日常化につながった。 ・雨のため中止となったが、市防災訓練に地域・保護者と連携した取り組みをすすめることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園の研究に教職員全員の意識の向上を図ることが課題となる。全員が研究に携わっていく組織編制等、工夫していく。 ・体育の授業改善、健康教育、運動の日常化を柱とした統一した組織にし4校で共通認識をもちすすめていく。 ・オリンピック・パラリンピックの実施年となるため、その教育効果を最大限生かしていく。 ・防災訓練に関しては地域の諸団体と協働した実践を今後、さらに検討していく。

検証項目	6 特色ある教育活動	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特色あるキャリア・アントレプレナーシップ教育 ・オリンピック・パラリンピック教育等 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会・生徒会主催連雀たてわり活動をさらに充実させる。 ・現在までの取組の成果を活かし、各校で地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育を行うとともに、カリキュラム・マネジメントの観点より来年度からのキャリア教育及び地域学習の計画を立てる。学園としての指導計画の確立とその成果についての広報を行う。 ・CS委員会が企画する「子ども熟議」をきっかけに新たな在り方を模索し、実践する。 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携したキャリア・アントレプレナーシップ教育を深めるために、「連雀学園版小・中一貫カリキュラム」の作成において、キャリア教育・地域学習の見直しをし、連雀の特色となる活動を位置付けることができた。 ・昨年度の「こども熟議」の意見交換から出された意見を実行に移す試みとして学園全体の児童・生徒が一堂に集まる「連雀集会」の企画、実施に向けて活動できたことは、大きな成果である。 ・「こども熟議」での意見交流、中学生のリーダーシップはCS委員会からの評価も高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「連雀学園版小・中一貫カリキュラム」の着実な活用と実施を促していく。 ・地域学習の充実に向けて地域の方々の学校教育への参画を今後開拓していく。 ・児童会・生徒会主催のたて割り活動をさらに充実させていくことが求められる。

検証項目	7 学校教育の質の維持向上を目指した学校の働き方改革	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・退校目標時間、ノー残業デー等の設定 ・教員のタイムマネジメント力の向上 ・人財の効果的活用 ・地域行事等への参加の工夫等 ・部活動の適正化 	
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学園における働き方改革の設定 ・部活動の適正化 ・地域行事等への参加の工夫 	
	成果	課題と改善方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・校務支援ソフトによる勤務時間の見える化は勤務時間に関する意識改革につながっている。 ・留守番電話の活用により午後7時以降の保護者からの電話が減少したことは勤務時間削減の効果として大きい。 ・地域行事への参加の意義と意味は全教員が感じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早く退勤する意識は根付いたが持ち帰らないとこなせない仕事もでてきており、会議の精選など、各校に応じた勤務体制の整備が課題となる。 ・地域行事の年間予定を示し、無理のない範囲内で自ら参加ができるよう働きかけを行っていく。

令和元年度 連雀学園の評価・検証結果のまとめ	
(1) から (7) の検証結果を踏まえて	1 「小・中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと
	<ul style="list-style-type: none"> ○「心と体を鍛える人」の達成に向けて学園研究において新たな一歩を踏み出した。 ○子ども熟議から出された意見を実現に向けて推進した。 ○学力の向上が図れた。 ○体力の向上が見られた。
	2 今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること
	<ul style="list-style-type: none"> ○学園研究「心身ともに健康な児童・生徒の育成を目指して」のさらなる充実 ○「連雀『まなび』のスタンダード」の保護者・地域への共有と推進 ○CS委員会の活動の充実
	3 「2」の重点課題を解決するための改善策
	<ul style="list-style-type: none"> ○研究組織として「授業改善」「体育的活動」「健康」の3つの柱を学園で共通にもつことを通して研究を深めていく。東京都小学校体育研究会多摩地区発表会（12月4日）に向けて研究を深めていく。 ○「連雀わが家の『まなび』のスタンダード」の保護者・地域への周知として、年度初めの保護者会で意義を伝えていく。CS委員会にも取り組みを適宜伝え改善に向けて意見の収集を行っていく。学校主体で行うが保護者・地域の意識が高まるようCS委員会からも働きかけていく。 ○CS委員会での協議時間の確保により委員同士の意見交換を充実させていく。また、各校に行事以外でもCS委員の参観の機会を増やし現場の様子を見たり、接したりしていく。